

# 令和6年度中学校武道授業(剣道)指導法研究事業



全国研修会の内容を協議

令和6年度中学校武道授業(剣道)指導法研究事業(主催=日本武道館・全日本剣道連盟・日本武道協議会、後援=スポーツ庁)を、6月15・16日の二日間、日本武道館大会議室と第2小道場において実施し、研究者17名が出席した。

本事業は中学校保健体育科における武道授業の充実へ向け、年間8～10時間の授業時間想定で、教育効果の上がる剣道指導法を研究討議するものである。今回は、10月11日～13日(長野県佐久市)と10月25日～27日(高知県高知市)で開催予定の「令和6年度全国剣道指導者研修会」(以下、全国研修会)の指導内容について発表・協議が行われた。

## ■1日目(6月15日)

開講式では、網代忠宏<sup>あじろただひろ</sup>全日本剣道連盟会長と永嶋信哉<sup>ながしまのぶや</sup>日本武道館振興部長が挨拶を述べた。

会議は佐藤義則<sup>さとうよしのり</sup>研究者の司会で進行し、始めに軽米満世<sup>かろこめみつよ</sup>研究者が昨年度の全国研修会のアンケート結果をもとに研修会の効果を振り返り、研究者に意見を求めた。

続いて柴田一浩<sup>しばたかずひろ</sup>研究者が秋田県で行われた指導力研修(スポーツ庁主催)の内容を紹介し、実技で使用する文言について研究者同士で活発な意見交換がなされた。藤田弘美<sup>ふじたひろみ</sup>研究者は中学校における剣道授業の実例を映像と共に紹介し、さらに今年度の全国研修会での研究協議の充実を提言した。

軽米研究者はコロナ禍における授業の構成について、実際の授業方法の紹介も含めた内容

にすることを提案した。花澤博夫<sup>はなざわひろお</sup>研究者が体罰によらない指導の構成について、既に学校現場での理解が進んでいるため、講義内容を再検討する必要があるのではないかと提起したところ、山神真一<sup>やまがみしんいち</sup>研究者から指導者のインテグリティ(誠実性等)に内容を変更してはどうかという意見が出された。

山下克久<sup>やましたかつひさ</sup>研究者から中学校部活動の地域移行について最新情報が共有されたところ、岩脇司<sup>いわわきつかさ</sup>研究者から高校進学において地域クラブでの活動を評価されるかが課題であると発言があり1日目が終了した。

## ■2日目(6月16日)

本年度の全国研修会では授業を行う上で目指してほしい指導の仕方と、その過程を示すことを共通認識とした。場所を第2小道場へ移した後、昨年度の全国研修会に参加した研究者の意見を取り入れながら実技の方法や時間のシミュレーションを行い、講師間で共有している指導ガイドラインを各コマを担当する研究者同士で更新した。

閉講式では網代会長と永嶋部長が挨拶を述べ、2日間の日程を終了した。

